

ふじだな



「いのち・いじめについて考える週間」の取組み ①

本校では、「いのち・いじめについて考える週間」を年間3回設定し、全校朝会での校長講話や各学級での指導を通して、子どもたちや教職員の「いじめ防止」の意識を高め、「いじめは生命をも脅かす行為であり、人間として絶対に許されない行為である」ことを学校全体で再認識する機会としています。また、「いじめ防止基本方針」のもと、定期的に学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見や実態把握に努めています。



5月11日は全市一斉の「いのち・いじめについて考える日」でした。全校朝会の校長講話では、「くれよんの くろくん」という短いお話を紹介しました。その中で、一人一人にはそれぞれよさがあり、違いを認め合うことの大切さや、いじめを見かけたときに見ているだけではなく、自分にできる行動を考えることなどを子どもたちに伝えました。

「話を聞いて思ったことや考えたことを聞かせてほしい」と呼びかけると、全校朝会の後、たくさん子どもたちが講話の感想を書いて、校長室前のポストに投函していました。特に、高学年の子どもたちの感想がたくさん届いていました。また、担任が授業の中で取り上げ、クラスの全員が感想を書いてポストに出していた学級もありました。

「いのち」や「いじめについて、子どもたちが考えたことを紹介します。

私は、だれかがいじめられている時は、自分から声をかけに行ける勇気がまだ無いから、だから見ていただけもいじめから先生などの大人の人に言うことなどにそのいじめられた人の助けになるようなことをできるようにしようと思えました。それぞれみんなちがって、みんな良いということが大切だと思いました。

最初は、みんなくろくんを差別していたけどそんな気持ちないかと思ってた人にも、ちゃんいいところがあるし、花火なんか黒がないとできないから、いじめたりせず、いいところをみつけるのは大切だと思いました。

いじめをしている人はなにもおも、アなくて、いじめられている人はいやなおもいをしてるからいじめられているところをみつけたらとめてあげようとおもった。人はそれぞれちがうところはあるのに、ちがうところがきにくくないだけでいじめるのはちがうとおもった。

自分とちがうところから、^{→お礼をいって}人の悪いところを言ったり。かけ口で自分が喜ばれる。てな、たら、いやな気持ちになるし、ほかの人にもうっ、ちがうから。私はいじめはダメだと思いました。たまたましたら、その人もいじめられるかもしれないから私はダメだと思いました。みんなでおまごをたすけよう。

いじめは見ていなくてもダメだし、手を助すのもいじめだから、もしも助かがいじめられている人を見たらすぐ助けたり、いじめしている人を止める。

いじめをした人は何も感ないかもしれないけどいじめを受けた人の心は、おとごりには、おどらな、いと思えました。

(裏面に続く)

(表面より)

各学級では、道徳などの学習で「いじめ」をテーマにした教材を取り上げたり、学級での友達との関わりを振り返ったりするなど、子どもたちが「いじめ」や「いのち」について考える取組みを行いました。

5年生では、道徳の教材「名前のない手紙」をもとに学習しました。このお話は、仲間外れにされていた主人公（わたし）が、筆箱に入っていた名前のない励ましの手紙に支えられ、最後には友達（吉野さん）が勇気を出して自分の行動を反省し、仲間外れがなくなっていくという内容です。子どもたちは、「なぜ吉野さんはみんなの前で話そうと思ったのか」「見ているだけでよかったのか」などについて考えました。学習を通して、困っている友達に寄り添うことや、「それはよくない」と伝えること、信頼できる大人に相談することなど、自分にできる行動について考えを深めました。



6年生では、道徳の教材「わたしのせいじゃない」をもとに学習しました。この教材は、一人の子どもがいじめられている場面を見ている周りの子どもたちが、「わたしのせいじゃない」「見ていただけだから」など、それぞれの立場から考える話です。学習では、「見ているだけなら関係ないのだろうか」「自分だったらどのように行動するだろうか」などについて話し合いました。

今日授業していじめについて考えて見てみぬふりをしたり、かけを言ってもすべはいじめだとあらためておもった。

あやまてゆるしてくれても、心のきずは残ることもあるから、元からしないようにしないといけないなと思っただ。

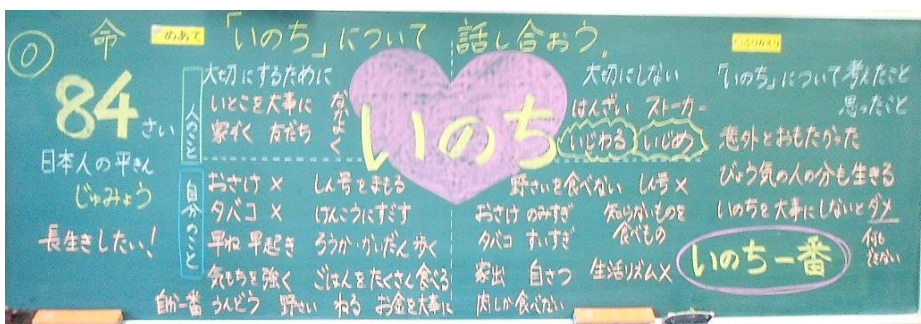
子どもたちは、いじめは当事者だけの問題ではなく、その場にいる一人一人が関わる問題であることに気付きました。そして、困っている人に声をかけることや、信頼できる大人に相談することなど、自分にできる行動について考えを深めました。学習を通して、いじめを許さない気持ち



をもち、自分や友達を大切にすることの大切さについてあらためて考える機会となりました。

3年生では、「いのち」について考える学習を行いました。日本人の平均寿命が84歳であることを知り、「命を大切にするためにできること」について話し合いました。子どもたちは、「やさしい言葉をかける」「自分の体を大切にすること」「人を傷つけることをしない」など、さまざま

意見を出し合っていました。また、産まれたばかりの赤ちゃんと同じくらいの重さの人形を抱っこする体験も行いました。「思ったより重かった」「大事に抱っこしたくなった」などの感想が聞かれ、命の重みや大切さを実感する機会となりました。



これらの学習を通して、子どもたちは、自分自身や周りの人を大切にすることについてあらためて考え、思いやりの心を育む時間となりました。

友達と認め合い、支え合いながら過ごす時間は、子どもたちの学校生活を豊かにします。その一方で、何気ない言葉や行動が友達を傷つけてしまうこともあります。

本校では、「いじめはいつでも、どの子どもにも、どの学校においても起こりうる」という認識のもと、子どもたちが互いの違いを認め合い、思いやりの心をもって行動できるよう、いじめの未然防止に継続して取り組んでいます。「自分がされて嫌なことは人にしない」「困っている人がいたら声をかける」といった当たり前のことを大切にしながら、誰もが安心して過ごせる学校づくりを進めてまいります。今後もご家庭と学校が力を合わせ、子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと考えています。子どもたちの小さな変化に気付くためには、ご家庭との連携が欠かせません。気になることやご心配なことがございましたら、遠慮なく学校までご相談ください。

※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。